様式3 令和5年度新座市学校評価システム学校運営協議会による評価シート

目指す学校像 (重点目標)	SDGsの目標達成に向け、未来へははたたく学校 ～子供が伸びる、子供と伸びる～
------------------	--

学校名	新座市立石神小学校
実施日	令和6年1月24日

<記入の仕方>

- 「自己評価」及び「学校運営協議会による評価」の欄には、S A B Cを記入してください。
- 「自己評価についての説明」の欄には、その評価に至った理由及び自己評価の結果を学校がどのように受け止めるか特記事項がある場合のみ記載してください。

評価項目「組織運営」

質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校運営協議会による評価	学校運営協議会による評価についての説明
学校は、働き方改革を進めるため、校務分掌や教育課程等を適宜見直し、教職員の意識を高めるよう組織的に取り組んでいる。	A	昨年度変更した3部会・3委員会制も定着し、全体で分担して仕事を行っていくことが浸透してきた。また、今年度は日課表を見直し、休憩前に全体の会議・研修等を終わらせるように取り組み、少しずつ効果を実感している職員が増えている。ただし、部会・委員会内での仕事の偏りも生じる場面があるので、組織体制も含めて見直しを図る。	A	管理職をリーダーとして、新たな組織体制の編成や定時退勤日の設定、教育課程の見直しをすすめており、学校全体で働き方改革の意識化が図られている。その中で、教師としての資質向上を図る研修や学習内容の精選・指導方法の改善に向けた取組も行っている。また、校長の経営方針に基づき、学年・学級経営が行われており、学校全体の掲示物、教室経営、学校だより等々の掲示教育からその真摯な姿勢が検証できる。 今後、更なる働き方改革を一步進めるために、校務分掌や教育課程を適宜見直し改善に努め、地域などに業務の分担を検討し、児童と向き合う時間の確保を図りながら児童一人一人に寄り添う教育をすすめてほしい。

評価項目「学力向上」

質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校運営協議会による評価	学校運営協議会による評価についての説明
学校は、ICTを有効に活用し、発達段階や学力・能力に即した学習指導を行っている。	A	ICTの活用について、本校は活用率が市内でも上位に位置する結果が出ている。授業で積極的に活用し、効率化を図れている。 しかしながら、ICTの活用率が学力調査の結果に比例していないことから、発達段階への有用性や学習活動への効果を検証しながら、ツールとして推進していく。今後もさらに活用場面を増やし、児童が活用する力を伸ばすために、教職員間で情報共有をしながら準備していく。	A	ICTの活用に関して、活用率が市内の小中学校の中で上位にあり、学校全体で取り組んでいる様子が窺える。授業の様子では、キュビナやロイロノートなどの活用は極めて積極的であり、授業中でも子供たちがいきいきと楽しみながら取り組んでいる姿が見える。特に発達段階を踏まえ、ICTに慣れるために教師が傍らで教え、基本的な使い方を教える段階から、児童自身が使途を考え実践していく学習へと活用の進化が図られている。児童のみならず教師でもICTとの関わりはまだまだ歴史が浅く、一般的学力向上にどれほど直結するかは未知数の段階かも知れない。しかしこの状態を続け向上させていけば、ツールであるからこそ、必ず学力調査の結果は向上していくものと信じている。 今後、さらに児童一人一人の学びを最大限に引き出し、児童の主体的な学びを支援する手段として、ICTの有効活用をすすめてほしい。また、児童生徒にとって、未来への希望や夢の中に、無限の可能性が感じられるカリキュラム・マネージメントを生かした授業展開をお願いしたい。「ひとり一人」の児童生徒が、貴重な時間を学校で過ごし、質の高い授業に数多く触れる授業展開を期待している。

評価項目「豊かな心の育成」

質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校運営協議会による評価	学校運営協議会による評価についての説明
学校は、児童生徒が友達や教職員・来校者に進んであいさつする環境を醸成している。	A	昨年度「あいさつの町 石神」プロジェクトを立ち上げ、取り組んできた。高学年の生活委員会の取組も進められているが、登校時や休み時間等で校内を移動する際に積極的にあいさつができる児童とできない児童の2極化の状況も見られる。教職員の働きかけだけではなく、児童たちの主体的な活動を支援する。そのために家庭への働きかけや地域との連携、プロジェクトの深化を図っていく。	A	授業参観や学校行事を含めて、石神小学校を訪問すると多くの児童たちから、笑顔のあいさつを受ける機会が多々あり、あいさつの習慣が定着してきた様子が窺える。地域でも児童生徒を中心に先生、保護者、地域の人、通行人皆が笑顔で明るく元気にあいさつする言葉を交わす姿が見られる。地域と連携した「あいさつの町 石神 プロジェクト」の取組、あいさつ推進の校内掲示物やあいさつ励行の声掛けなど、あいさつをすることをすすめる環境づくりが醸成されつつある。 学校は、明るいあいさつを合言葉に、丁寧な言葉使い、言語環境の醸成に努めており、よりよい環境を生み出す努力をしている。今後も「あいさつの町 石神」プロジェクトを推進し、「あいさつ」の飛び交う美しい町を目指し、あいさつを習慣化するための取組の継続をすすめてほしい。

評価項目「健康・体力の向上・安全」

質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校運営協議会による評価	学校運営協議会による評価についての説明
学校は、体育や部活動、休み時間などを通じて、児童生徒が意欲的に運動に親しむような取組を行い、体力向上に努めている。	A	新型コロナウイルス感染症が5類へ移行し、体育朝会の計画的な実施や、積極的に外遊びや体を動かす活動しようとする児童も増えてきた。休み時間における体育委員会の児童の主体的な取組も少しずつ実施してきている。さらに、教職員が授業内で体を動かすことの楽しさを味わわせる指導力の向上が必要なため、研修の機会や指導技術の学ぶ機会を作る。日課表の見直しによる短時間になった休み時間の中で体を動かすための工夫や、感染症や暑さ対策（特に1学期）を踏まえた授業計画や取組を検討する。	A	新型コロナウイルス感染症、インフルエンザなど感染症により、活動が制限される状況が長く続いてきたが、体育の時間を中心に、明るく元気に活動できるよう環境面に配慮して、効果的な運動を組み合わせ、個々の生徒の身体能力に合わせて、体力の向上につながる授業に努めている。また、体育朝会の計画的な実施や体育委員会による休み時間の自主的な取組など、意図的に運動に親しむ体制づくりがすすめられ、体力向上に努めている様子も窺える。業間縦割り活動を実施し、児童が話し合いながら活動内容を決定し、上級生が下級生を支援しながら校庭を走り回るなど工夫ある取組も進められている。 子供たちの明るく元気な声は、地域を明るく元気にする。体力の維持向上は児童生徒、自らの健康的な生活の支えとなり、学習意欲を維持する源ともなるので、体力の維持向上に向けて学習指導を丁寧に着実に積み重ね、また、基本的な感染症対策や暑さ対策に努め、元気に体を動かす児童の育成に努めてほしい。

評価項目「保護者・地域との連携協力」

質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校運営協議会による評価	学校運営協議会による評価についての説明
学校は、保護者や地域と連携した活動を計画的に実施している。	A	P T Aをはじめ学校応援団の協力により、授業補助やP T A行事、学校応援団活動（読み聞かせ、花壇整備、図書館整備など）が計画的に進められている。今年度は児童委員会とタイアップした環境整備（植栽活動）も実践できた。また、アフターコロナの中、町内会や地域団体との連携した活動・行事（朝のあいさつ、防災訓練等）も積極的に進めることできた。今後も児童や教職員たちと授業内での連携・実践する機会を確保していく。	A	保護者・P T Aや学校応援団と計画的な活動をすすめているだけでなく、児童委員会とも連携しながら環境整備をすすめるなど一体感が醸し出されている。子供たちは保護者と共に、地域クリーン活動（旧市民清掃の日）、夏祭り、防災訓練、秋祭り、クリスマス会等地域の活動に、極めて積極的に参加している。学校も、地域との連携を大切に、あいさつの推進や登下校の見守りなど具体的な形で連携を図っている。保護者・地域との連携は、今後の災害時における学校が拠点となる体制の基ともなっている。 今後、働き方改革の視点から地域との連携について検討を重ねてほしい。